

いのちあふれる森を次世代へ

しれとこの 森通信

2024
No. 27



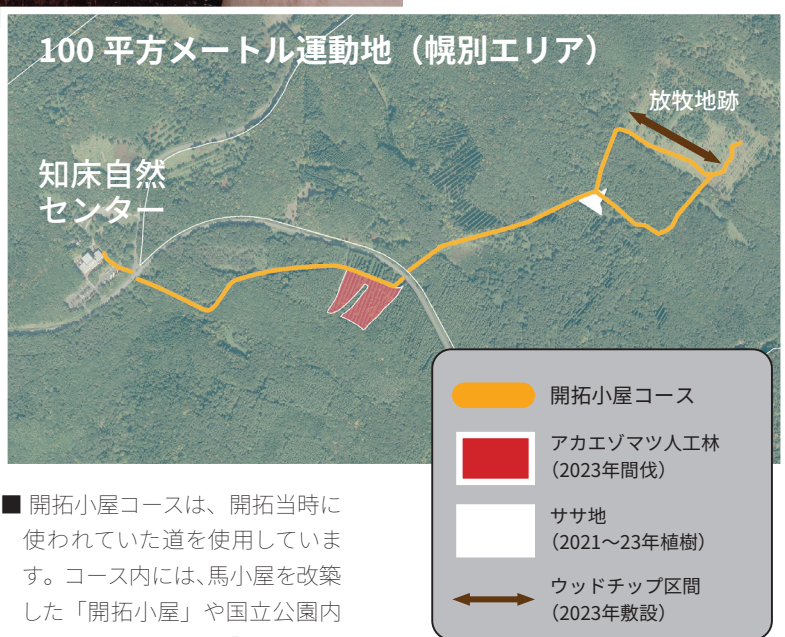
- P2 みんなでつくる森づくりの道 開拓小屋コース
- P6 復活！知床自然教室
- P9 森づくりの現場から 図鑑標本画家 田中豊美さん

みんなで作る森づくりの道 開拓小屋コース



■ 開拓小屋コースの放牧地跡にチップを敷く森づくりボランティアの皆さん（2023年6月）

開拓小屋コースは、しれとこ100平方メートル運動で保全している幌別エリア（知床自然センター周辺）を一般に公開するため、2016年にオープンしました。全長約5kmのコースは、開拓の歴史を現代に伝えると共に、知床の自然を満喫できる散策路として、今や多くの人々に親しまれています。またコース内では、知床に集うボランティアさんの協力のもと、森づくりやコースの維持管理を実施しています。今回の特集は、自然を愛する人々に支えられて運営している「森づくりの道・開拓小屋コース」の魅力をお伝えします！



■ 開拓小屋コースは、開拓当時に使われていた道を使用しています。コース内には、馬小屋を改築した「開拓小屋」や国立公園内で唯一保存している「開拓家屋」など、知床開拓の名残を目にすることができます。

ウッドチップを敷く

運動地の30〜40年生のアカエゾマツ人工林を対象にして、2019年から間伐作業を行っています。間伐材は、森づくりのルールに従い、運動地内で土に還すことが大前提です。そこで、間伐材をチップにして開拓小屋コースの散策路に敷いています。チップは、路面保護や雑草の抑制、コースの明確化など、コース管理の資材に最適な一面もあり様々なメリットをもたらしてくれます。しかし難点もあります。チップを敷く作業が、とても労力がかかることです。チップの運搬には重機やダンプカーが必要になり、コースに敷き均す作業には多くの人手が欠かせません。2023年6月の2日間で実施した作業には、全国各地からのべ29人のボランティアが駆けつけられました。幅広い世代が交流を

楽しみな汗を流し、距離にして約50mチップを敷くことができました。今回チップを敷いた区間は、知床連山が一望できる最も眺望が素晴らしいエリアです。そこは開拓当時、家畜の放牧地でした。そのため、現在は牧草やササに覆われています。加えて、羅臼岳のおろし風やエゾシカの影響も相まって、運動地の中でも森林化が難しいエリアに挙げられています。しかしながら近年、エゾシカの生息頭数の減少傾向に伴い、シラカンバやケヤマハンノキなどの広葉樹に至る所に生え始め、森林化の兆候が現れています。今は草原の道ですが、数十年後には木漏れ日の下を歩く道になっているかもしれません。歩みはゆっくりですが、皆さんが守った開拓跡地は、人の手と自然の力で徐々に森林化が進んでいます。

楽しみながら汗を流し、距離にして約50mチップを敷くことができました。今回チップを敷いた区間は、知床連山が一望できる最も眺望が素晴らしいエリアです。そこは開拓当時、家畜の放牧地でした。そのため、現在は牧草やササに覆われています。加えて、羅臼岳のおろし風やエゾシカの影響も相まって、運動地の中でも森林化が難しいエリアに挙げられています。しかしながら近年、エゾシカの生息頭数の減少傾向に伴い、シ



参加者募集!

森づくりボランティア活動
2024年もウッドチップを敷くぞ!

LINE
オープン
チャット

しれ100
ファンの会

もよろしく
お願いします!



QRコードからどうぞ!

イベント情報の配信や知床の自然についてLINEで情報交換する場です。お気軽にご参加ください!

- 日程: 6月22(土)〜23(日)
8月24(土)〜25(日)
- 時間: 9時〜16時
- 集合場所: 知床自然センター

○各種お問い合わせ・参加申し込み
公益財団法人 知床財団
自然復元事業係

TEL: 0152-24-2114
MAIL: info@shiretoko.or.jp



■初夏の知床は、爽やかな新緑が素晴らしい時期です。知床観光と合わせて森づくりボランティア活動はいかがですか? 皆さんのご参加心よりお待ちしております!



アカエゾマツの人工林に広葉樹を植える

コース沿いには、1980年に植樹したアカエゾマツの人工林（約1・27ha）があり、2023年6月に間伐作業を行いました。間伐後は、林内の樹種多様性を高めるため、植樹作業を進めています。植樹の苗木には、樹皮保護ネットを巻いてエゾシカ対策を施すため、

15〜20年生（樹高3〜5m）の広葉樹を使います。樹種はエゾシカの採食により減少してしまつたオヒヨウ（ニレ科）などを選び、これまで合計8種27本を植えました。私たちが実施している植樹は、大きな苗木を使うため、支柱の設置が必要で、一般的な植樹に比べてコストが

かかります。しかしこの度、作業省力化に繋がる新しい植樹方法を発案しました。それは、間伐作業時に特殊伐採により樹高の上部を伐つた「断幹木」を支柱に代用するというものです。このアイディアにより、労力を要する支柱設置作業が省け、作業効率は格段に上がりました。限られた労力を最大限に活かすため、現場では日々工夫を重ねて、森づくりにチャレンジしています。

料に頼らない森づくりも構想しています。その初めの一手として、馬を使って間伐材を運搬する馬搬を試行しました。かつて馬搬は、林業に欠かせない技術でしたが、林業機械の発展に伴い廃れてしまいました。しかし近年、環境への負荷が少ないサステイナブルな手段として再び注目を集めています。今回の作業は、北海道厚真町の西埜馬搬の協力を得て実現しました。馬は北海道を代表する「ばん馬」です。体重は900kgもあり、とても大きな体です



■断幹木を支柱にして広葉樹を植える。



西埜馬搬



<https://nishinobahan.com/>

馬搬とは、伐採した木を馬で運ぶこと。自然と共存する環境に優しい林業として、ヨーロッパでは「Horse Logging（ホースロギング）」と呼ばれ盛んに行われています。日本でも古くから行われてきましたが、昭和中期に重機が導入されてからは次第に廃れ、今では全国で数事業者を残すのみになってしまいました。西埜馬搬は馬搬のほかにも、馬で畑を耕す馬耕（ばこう）、小学校の野外教室、時にはイベントなど、馬とともに様々な現場で活動しています。



■馬を巧みに操り間伐材を運搬する西埜将世さん。

アカエゾマツの造林地を過ぎて更にコースを進むと、ササ地の森林化にチャレンジしている作業地があります。ここではササの刈り払い後、2021〜2023年の3年間で合計9種49本の広葉樹を植えました。もちろんここでも前述の様なエゾシカ対策と支柱設置を伴う作業が必要です。作業は、春

ササ地に 広葉樹を 植える

が、せまく険しい斜面も難なく丸太を運搬します。また、重機作業に比べて林内の植生を荒らさないメリットもあるため、生物多様性に配慮した作業が行えます。森の中で人と馬が一体となって働く姿からは、自然と調和する活動を実践する私たちにとって、新たな可能性を感じることができました。



と秋に行う森づくりボランティア活動や教育機関の環境学習、また企業のCSR活動で行い、これまでのべ36人の協力を得て実施しました。その努力は、かつて険しいササ地だった所を15〜20年生の広葉樹が屹立する風景に変えました。これは、エゾシカの影響で滞った植生回復を人の手で成し遂げた森づくり作業の大きな成果だと言えます。今後、植樹した広葉樹の生育が順調にいき森林化が進めば、発達した樹冠により林床が暗くなりササが衰退する見込みです。そして自然の力により在来の樹種が芽吹き、徐々に天然の森に遷移して、数百年後には知床の原生的な森



がよみがえることを期待しています。このように開拓小屋コースは、開拓跡地を知床本来の森に戻す活動の最前線の場でもあります。利用者は約5kmの散策を通して、知床開拓の歴史に触れると共に、森林再生の作業地を直に見ることが出来ます。100平方メートル運動の森づくりの道は、人と自然のより良い関係を思索しながら、知床の未来の森に延びています。

4年振り

復活!知床自然教室

第41回知床自然教室の開催レポート

2019年以來実に4年振りの知床自然教室は、2023年7月31日～8月5日に開催することができました。知床の自然を全力で楽しみ成長した子どもたちの様子をお伝えします。

■ 斜里町ウトロのチャシコツ岬で生物観察。夏のオホーツク海はまるで水族館のようでした。



■ 森の探検では、イワウベツ川沿いにそびえ立つカツラの巨木に会いに行きました。途中、樹上で昼寝するヒグマにも遭遇(表紙写真)。子どもたちは、知床の豊かな自然を体験しました。



「人がにぎやかにしていると動物たちは隠れてしまう。10分間じっと観察してみよう」指導員のかけ声に応え、子どもたちは静かに潮だまりを観察していました。すると「あっ!出てきた、出てきた!」カニが水草のすき間から横歩きで出てきました。一見何もいない磯の潮だまりには、実はエビやカニがたくさん生息しています。子どもたちは、自然と一体となって静かにじっと待つ観察方法を学びました。また、イワウベツ川沿いの森を探検した子どもたちは、その豊かな森から自然の営みを学びました。ある男の子は「枯れた木はやがて土にかえり、次世代の木の栄養になって森をつくる。僕らも森の木々のように、自分のことだけに生きるのではなく、あとの人々により影響を与えられるような生き方をしたい」と感想を伝えてくれました。4年振りの自然教室でしたが、知床の自然はこれまで同様、子どもたちに多くの感動を与えてくれました。これからも、森や海や川をおもいっきり楽しめる自然体験活動を通して、子どもたちの成長の手助けをしたいと思います。



「自然教室はキャンプというより野営」と言われることがあります。キャンプ場と違い、水道も電気も、もちろんガスもありません。厳しい大自然で暮らすには何が必要でしょうか? 体力、知恵、そして道具です。このたび、斜里町と包括協定を締結している株式会社ゴールドウイン様より、テントの提供とスタッフを派遣いただきました。分かりやすいテント設営のレクチャーは大いに盛り上がり、子どもたちに大好評でした! この場を借りてご支援に感謝申し上げます。

しれとこ 100 平方メートル運動関東支部主催 「知床自然教室リーダー育成プログラム」実施報告

第 41 回知床自然教室リーダー 森下 紗衣 (駿河台大学)



私にとって知床自然教室は、挑戦と成長の連続でした。参加を決意した当時は、キャンプ経験がなく不安もありました。でも、関東支部のリーダー養成プログラムに参加することで、野外炊飯やテントの立て方、リスク管理などをしっかり学び、自然教室にチャレンジすることができました。

子どもたちとの出会いの日が忘れられません。みんなが 4 年ぶりに開催される自然教室への期待で目を輝かせていました。私はこの期待に応えリーダーとしての役目を全うできるのか、正直自信がありませんでした。でも、仲間たちの応援や指導員のサポート、そして何より大自然の中でも好奇心と挑戦を忘れない子供たちの姿が私を励まし、失敗を恐れない人間へと成長させてくれました。

知床自然教室はすばらしい自然体験活動です。毎年子どもたちが、生涯忘れられないような体験をしています。そして、この貴重なイベントは、100 平方メートル運動を支援する皆様のご寄付があるからこそ実現しています。支援者の皆様、本当にありがとうございます。そして、これからも変わらぬご支援をよろしくお願いします!



■ 自然教室の閉校式。全てのプログラムを終えて、たくましくなった班員と記念撮影。またいつか、知床で再会しようね!

続報！イワウベツ川の手作り魚道

手作り魚道の効果を調べるために、知床財団、知床博物館および東京農業大学と共同で魚類調査を行っています。最新の2023年10月の調査で、なんとオシヨコマ1尾が魚道

を通過して上流の川へ移動していたことが判明しました！このオシヨコマは、同年6月の調査で魚道下流側にて捕獲され、^{ひれ}鱭に切り込みを入れてマーキングした個体です。個体の体長が30.6cmと大型であったことから、流速が早い魚道を泳ぎきれたの



ではという専門家からの意見もあり、今後は小型の魚でも上れるように瀬を増設したり、魚道へ流れ込む水量を調整したりして、魚の往来をさらに促進したいと考えています。

嬉しい報告はまだあります。イワウベツ川本流に残存する治山ダム2基（北海道森林管理局所管）のうち1基の改修工事が完了しました。残る1基は、これから3年かけてスリット状に切り下げられ、4年後には海から遡上するサケ類が通過できるようになります。この改修工事待ちのダムの上流側に私たちの手作り魚道があります。魚道を泳ぎ上げるサクラマスを見られる日まで、あと一歩のところまで来ています。



■ 改修工事後の治山ダム。

100平方メートル運動ハウス「名札の森」完成

しれとこ100平方メートル運動ハウスは、運動の歴史と取り組みを紹介する展示施設で、参加者の名前が掲示されています。運動45周年を記念して、2022年度に展示の大改修を行いました。そしてこの度、旧運動

参加者の名前を壁面に掲示している部屋に「名札の森」が誕生しました。左写真のモニュメントには、1997年度から2022年度の運動参加者の名前が掲示されています。資材はアカエゾマツの間伐材で、「寄付により守られた土地に育つ森」を林立す

る柱で表現しています。みなさまからのご支援により育つ、しれとこ100平方メートル運動ハウスの「名札の森」をご覧ください。

なお、2023年度以降の運動参加者の名札は施設内の台帳に随時記載しています。これらについては今後、5年ごとの運動周年事業でモニュメントを増設し、名前を掲示していく予定です。



■ 改修後の展示エリア。木の温もりが伝わるような空間演出により、ゆったりとした時が流れています。



図鑑標本画家

田中 豊美さん

.....
1939年、三重県生まれ。日本を代表する動物画家。1969年より図鑑、絵本等に動物専門のイラストを発表する。1997年、当運動が本格的に森林再生事業へ移行したことを機に、募金証書のイラストを制作。豊美さんは、知床の森を何度も訪れ、その経験から得たインスピレーションをもとに素晴らしい作品を生み出しています。

26年ぶりに知床の森を描いた感想を聞かせてください。

26年前は写真などの参考資料が少なく、知床の開拓跡地で成長してゆく針葉樹を想像しながら描くのに苦労した記憶があります。新しい絵でも背景の描写に苦労しました。原生的な森の雰囲気をかき出せるか…森の暗さや奥行き、高さの表現が難しかったです。私の人生で最大サイズ(タテ70cm×ヨコ110cm)の絵になりました。

新しい絵の見どころについて教えてください。

生き物たちの動き。ヒグマの親子を中心に、様々な動物がいきいきと暮らす様を描きたいと思いました。私は絵を描く時にはその生き物になりきって、心の動

きを想像しながら描きます。実は、変身願望があって、野生動物になって森を駆け回りたい人なんです(笑)。

豊美さんにとって、知床の森の魅力はどこにありますか。

原生林でよく見かける針広混交林です。トドマツなどの針葉樹は凛として見え、森の風景を引き締めます。その中に、やわらかな印象のミズナラなどの広葉樹が交じり合う。そんな北方系の森の雰囲気に自ずとワクワクしてきます。

100平方メートル運動を応援してください。皆さんへ、メッセージをお願いします。

ぜひ動物の気配を感じながら知床の森を歩いてみてください！実際に動物に出会うのは難しくても、例えば、目の前

森づくりの現場から

にある倒木の上にエゾリスが出てきてくれるといいなあとか、ヒグマが乗り越えてくるといいなあとか、そんな想像をしながら森を歩くワクワクするはずですよ。私が森を歩くとときは、頭の中ではどこにでも動物が出てきますよ(笑)。

開拓跡地が原生の森へと復元されるまでには、人の寿命を優に超える数百年がかかるとも言われています。私たち支援者である皆さんを含む、は、そのような遥かなるゴールを目指した森づくりに挑んでいます。豊美さんが描いたイラストが、この先の世代を超えた道標になり、いつか現実の森になる日を夢見て、森づくりはこれからも続きます。



現在の募金証書

募金証書のイラストが新しくなります

運動地の森は皆様の支援により、現在の募金証書に描かれている森に近づいてきました。そこで、更なる森林化を祈念して、私たちが最終的に目指す原生的な森を、改めて田中豊美さんに描いていただきました。

田中豊美さんが描いたイラストは、「しれとこ100平方メートル運動ハウス」にて原寸大で展示されています。知床にお越しの際は、ぜひご鑑賞ください。

しれとこ 100 平方メートル運動 推進本部・各支部の活動報告

関西支部

「関西支部交流会」を開催しました（2023 年9月）

大阪梅田で開催された交流会には、自然教室の参加者や OBOG、数十年前に運動に参加された方など 33 名が集結しました。最新の森づくりのスライドトークや、完成したばかりの紙芝居「しれとこのみずならがはなしてくれしたこと」の読み聞かせなど、知床ネタが満載で、子供から大人までが楽しめる交流会となりました。1月には自然教室参加者を集めた「新年の集い」が盛況に開催され、関西支部の活動は盛り上がっています！



北海道支部

これからの知床を考える市民の集い(2023 年 12 月)

札幌で開催されたこのイベントには、札幌市や近郊から 26 名が参加されました。英国ナショナルトラスト運動の事例や、しれとこ 100 平方メートル運動 46 年の歴史についての講演を聞いた後、グループに分かれて今後の知床について語り合いました。道内の運動参加者を増やすアイデアや、学生を対象とした森づくり体験企画など、地元北海道から知床を盛り上げるための熱い議論が展開されました。



推進本部・各支部

しれとこ 100 平方メートル運動 若者の集い（2024 年 2 月）

各支部から計 13 名（関西支部 1 名、関東支部 10 名、北海道支部 2 名）が知床に集まって交流を深めました。内容は森林再生を目指す原生林をスノーシュートレッキングしたり、古くなった樹皮保護ネットを回収したり、知床が世界遺産になった理由のひとつである流水をガイドウォークで体験したりと盛りだくさんでした。最後のまとめでは、グループに分かれて運動の魅力や課題を整理し、運動の認知度をあげるプロジェクトを考えてもらいました。真剣に議論する若者たちの姿を見て、今後の活躍に期待をふくらませました。



各支部 連絡先

支部活動にご興味ある方、お気軽にご連絡ください

関東支部	支部長	國廣美樹	100m2kanto@gmail.com
関西支部	世話人代表	小田忠文	100m2kansai@gmail.com
北海道支部	代表	小川巖	011-737-7841 環境市民団体エコネットワーク内

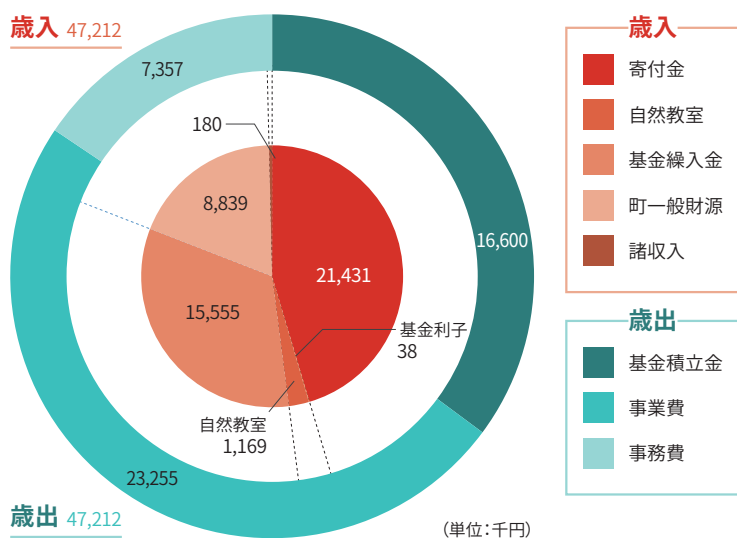
(単位:千円)2024年5月31日現在

		2022年以前	2023年	計	
国立公園内森林保全基金の状況	歳入	寄付金	976,129	16,562	992,691
		利息	69,974	38	70,012
		計	1,046,103	16,600	1,062,703
歳出	事業費	828,575	11,949	840,524	
	事務費	154,182	3,606	157,788	
	計	982,757	15,555	998,312	
残高		63,346	1,045	64,391	

運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

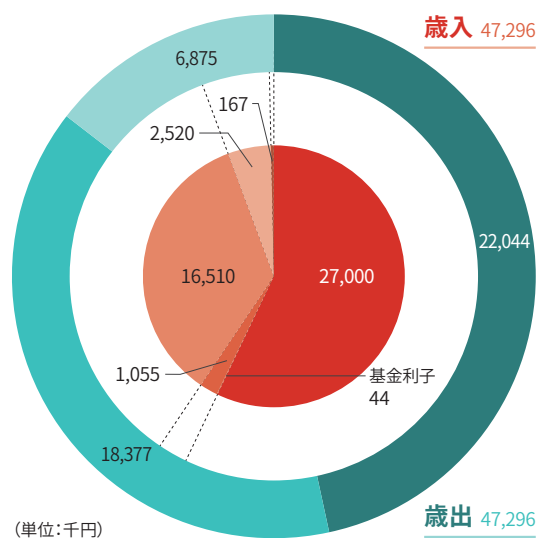
会計報告

○2023年度の事業決算

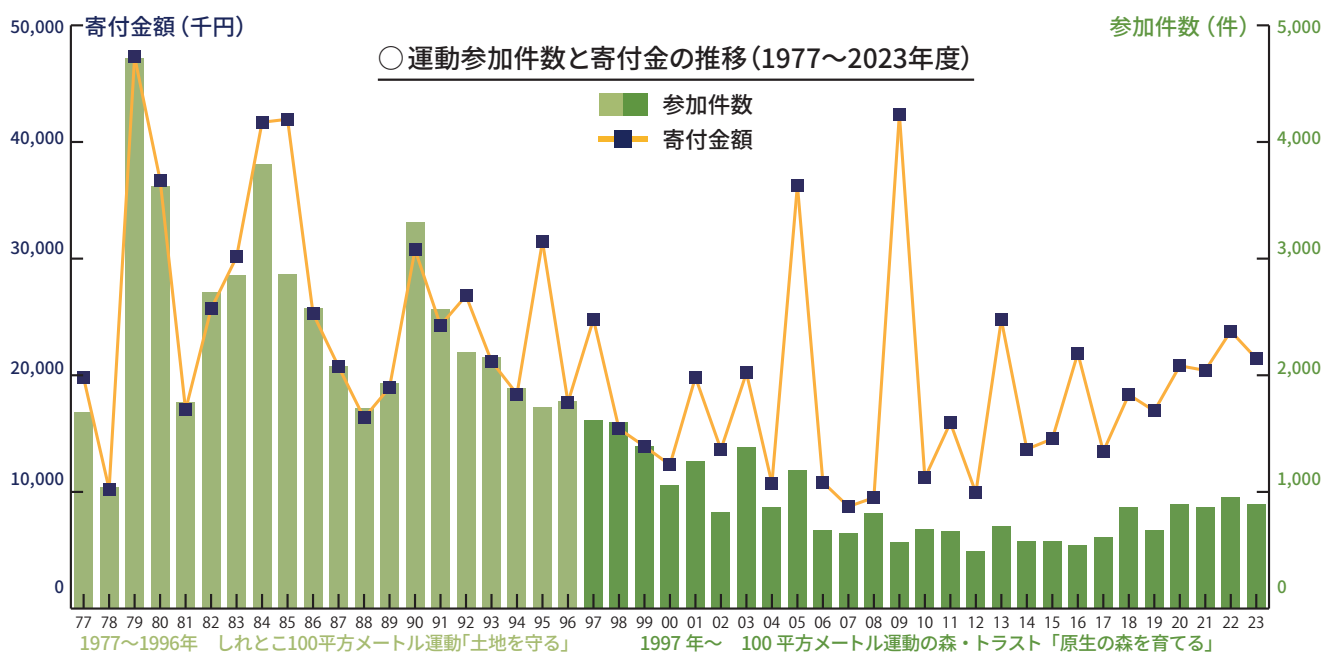


2023年度は、総額47,212千円を支出しました。事業費として森林再生業務委託費などに23,255千円、事務費として森通信の作成費用や受付事務員賃金などに7,357千円を支出しました。2023年度にいただいた寄付金に利子を含めた総額21,430千円のうち、16,600千円はいったん運動の基金に積み立てて2024年度以降の活動資金とし、企業版ふるさと納税4,868千円は2023年度の森林再生業務委託費として活用させていただきました。

○2024年度の事業予算



2024年度の総事業費は、47,296千円を予定しています。収入では、これまで積み立ててきた運動の基金から16,510千円、町の一般会計から2,520千円を繰り入れるほか、寄付金の目標額として27,000千円、その他1,266千円を見込んでいます。支出は、森づくり作業等に係る事業費18,377千円を予定しています。また、事務費として森通信印刷などの広報普及費用や受付事務員賃金などに6,875千円を支出する予定です。この他、寄付金などはいったん基金に積み立てるため22,044千円を計上しています。



知床の森づくりには、あなたの力が必要です!

森づくりボランティア&イベント参加者募集中

森づくり週末ボランティア



2024年(春~秋)

- ・6/22(土)~23(日)
- ・8/24(土)~25(日)

【活動内容】

ウッドチップ敷きや防鹿柵補修作業。



2025年(冬)

- ・1/18(土)~19(日)
- ・1/25(土)~26(日)
- ・2/8(土)~9(日)
- ・2/15(土)~16(日)

【活動内容】

冬期森づくりの道の管理や間伐作業を行います。

しれとこの森交流事業



● 森づくりワークキャンプ

2024年10/27(日)~10/31(木) 予定
参加費:16,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)
対象:18歳以上
定員:12名(先着順) 申込×切9/30



● 第42回知床自然教室

2024年7/30(火)~8/5(日) 月
参加費:35,000円(別途現地までの交通費)
対象:小学校5年生~高校3年生
定員:30名(抽選) *応募は×切ました。



● 第28回しれとこ森の集い(植樹祭)

2024年10/13(日)
参加費:無料 申し込みは
斜里町役場 環境課(自然環境係)まで
TEL:0152-26-8217 FAX:0152-23-4150

イベント・ボランティア参加申し込み・お問い合わせ

公益財団法人 知床財団 自然復元事業係
TEL:0152-24-2114/MAIL:info@shiretoko.or.jp

※各種イベントの参加者募集は、ホームページでもお知らせします。 <http://100m2.shiretoko.or.jp/>



100平方メートル運動の森・トラスト参加のお願い

知床の森づくりは、「100平方メートル運動の森・トラスト」参加者からの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願い致します。

■寄付金:1口5,000円

参加(寄付)の方法

- 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。

【郵便払込】

申込書付属の払込取扱票で払い込みください。



寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。メッセージを添えて、ご家族ご友人へ贈るプレゼントにもおすすめです。

【お問合せ】

〒099-4192
北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場 環境課(自然環境係)
TEL : 0152-26-8217
FAX : 0152-23-4150
MAIL : 100m2@town.shari.hokkaido.jp

【ホームページ】

<http://100m2.shiretoko.or.jp/>



「寄付のお願い」ページからお申込みください。郵便払込用紙をお送りします。

【ウェブ決済】

ふるさとチョイスほかにてお礼の品「募金証書」の寄付が森づくりにご寄付です。



募金証書 斜里町 で検索



クレジット決済、
楽天ペイ、Amazon Pay、
メルペイ、PayPal、
d払い等各種。

【控除制度について】

運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。

- ・相続税は非課税となります。
- ・所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- ・住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- ・控除の対象となるのは、2,000円を超える寄付です。

森づくりをSNSにて発信中

